

中学校第2学年
国語

創作した物語の下書きを読み合って、書き手が工夫した描写から「何が伝わったか」をカードに入力して送り合い、表現の効果を検討して改善する。



中学校第2学年 国語 「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」

■単元の目標

- (1) 文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。
- (2) 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

■単元の概要

体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を構想し、より効果的に登場人物の心情を伝えたり印象付けたりすることができるように描写などを工夫して記述する。

■単元の指導計画（5時間）

第1時

モデル文を基に、表現の効果を考えて描写を工夫することについて理解し、物語の構想を練る。

第2時

表現の効果を考えながら、描写を工夫して物語の下書きを書く。

第3時

前時に書いた物語の下書きを読み合い、表現の効果を考えて描写の工夫について検討する。その後検討したことを踏まえて文章を修正する。

第4時・第5時

語順を変えると伝わり方がどう変わるかを考えて、物語の下書きを推敲し、清書をする。互いの物語を共有し、単元の学習を振り返る。

■主な時間の概要

「令和6年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語」大問3の【ノートの一部】、【物語の下書き】を一部改変したものをモデル文として表現の効果を考える。その後、身近なものを登場人物にした物語の構想を考える。

場面ごとの登場人物の心情を読み手に効果的に伝えるために、どのように描写を工夫すればよいのかを考えて、物語を書く。

互いの下書きをクラウド上で共有して読み合い、書き手が工夫した描写から感じたことを伝え合う。伝え合ったことを基に、より効果的な語句や表現を選んで描写を工夫する。

文の成分の順序によっても、伝わり方が違うことを理解し、語順の適切さや効果を考えて、よりよい表現になるように推敲する。

※本実践は、令和6年度「全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 中学校国語」（「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」）を参考にして実践した事例である。

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_03.pdf#page=11

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿（第3時）

【学習活動の場面（第3時）】

前時に書いた文章（物語の下書き）を読み合い、書き手が工夫した描写から「何が伝わったか」をカードに入力して送り合うことで、その工夫が「自分の考えが伝わる表現」として効果があったのかどうかを検討し、より効果的な描写を工夫する活動を行う。

【子供の「深い学び」の姿】

Aは、紙粘土を登場人物にした物語を「構想メモの一部」のように構想し、「第3時に書いた文章（第4場面）の一部」の下線部には「あの子が遊んでくれた時に感じた手の熱の記憶が自分の誇りになっていることを伝える効果」があると考えていた。その後、他の生徒との交流などを通して考えを深め、登場人物の心情をより効果的に伝えるための描写を工夫し、下線部を「最後に提出した文章の一部」のように修正した。



〔構想メモの一部〕

〔構想メモ〕

〈登場人物の設定〉

- ・僕……紙粘土。語り手。
- ・あの子……粘土が好き。紙粘土を買った。
- ・お母さん……きれい好き。断捨離が趣味。

〈もとにする体験〉

- ・百円均一のお店で紙粘土を買った。
- ・家に帰って早速遊び始めたが、端の方しか使わないまま残りを袋に入れて放置した。
- ・お母さんが、カチカチの紙粘土を見つけて捨てた。
- ・懸命な処置によって紙粘土は復活し、作品となった。

〈各場面で伝えたい「僕」の心情〉

- 1 選ばれてうれしい。遊んでもらって作品になる期待。
- 2 固くなり、遊んでもらえなくなることに不安を感じる。
- 3 端が欠けたまま捨てられ、死んでしまうことが悲しい。
- 4 あの子に遊んでもらったことが誇らしい。

〔第3時に書いた文章（第4場面）の一部〕

あの子が、捨てられた僕をゴミ箱の中から見つけ出し、遊び始める。「え？」僕はびっくりした。水をかけて、こねて、かけて、こねて。だんだん作品になる。僕は今、暗い段ボールの中にいる。だけど、あの子の手の熱が僕を中心から光らせる。

〔その表現から「何が伝わったか」を他の生徒が入力したカードの一部〕

使ってもらった嬉しさ

再び遊んでもらった時の喜び

〔最後に提出した文章の一部〕

だけど、あの子の手のぬくもりは、僕を今も真ん中から
あたためる。

【当該指導での「深い学び」】

他の生徒との交流後、Aは下線部の表現の効果を再考し、「もっとじんわりと心が温かくなるような誇らしさを、しみじみと感じている心情を読み手に伝えたい」と考えを深めた。そして、その心情がより伝わるように「ぬくもり」「真ん中」「あたためる」という語句を選んで描写を工夫した。また、これ以外の表現についてもカードの内容を基に検討し、他の生徒や教師と相談しながら、より効果的な描写を工夫することができた。

■指導上の工夫とICTの利活用

①どのような効果を考えて描写を工夫したのかを明確にさせる。

* 前時に書いた文章を読み直して「自分が工夫した描写」に下線を引かせ、その工夫にはどのような効果があるのかを考えさせる。

②互いに文章を読み合い、工夫した描写から「何が伝わったか」を交流させる。

* 文章をクラウド上で共有し、同じグループの他の生徒の文章を読ませ、下線が引かれた「書き手が工夫した描写」から「何が伝わったか」をカードに入力させ、書き手の生徒に送らせる。グループ内の文章を読み終わった生徒には他グループの文章も読ませる。

③自分が工夫した描写の効果を検討させ、より効果的な語句や表現を考えて修正させる。

* 複数の生徒から送られたカードの内容を基に、工夫した描写が「自分の考えを効果的に伝えるものとなっているかどうか」を検討させる。必要に応じて他の生徒や教師に相談しながら、より効果的な描写を工夫させる。

【活用したソフトや機能】 ロイロノート

学習指導要領や解説との関連

中学校学習指導要領 第2章 第1節 国語

第2 各学年の目標及び内容〔第2学年〕の2 内容

〔思考力、判断力、表現力等〕B書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

出典：中学校学習指導要領P36

表現の効果を考えて描写するとは、その語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら、より効果的な語句や表現を選んで描写することである。

出典：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編P93